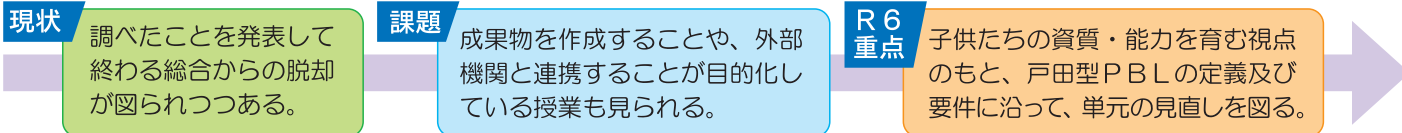


戸田型PBL(Project-Based Learning)の考え方 6



戸田型PBL（課題解決型学習）の定義とは

具体的な誰かの要望や自身の願望にもとづき、何をしていくか
(課題)を決め、期限内にその目標の達成や理想の実現(解決)
を目指す活動を通じて、「未来を切り拓く力」を身に付ける社
会に開かれた探究的な学び(学習)

課題の捉え方

- ・やりたいことは何か
 - ・自分たちができることは何か
 - ・やらなければならないことは何か
- なすべきことは何か？



戸田型PBL（課題解決型学習）にするための要件

単元設計の際にチェックすること	☐ 「誰の何のため」という、対象と目的が具体的かつ明確である ▲水害を調べて発表しよう⇒必要な防災グッズを親に提案し、家族を守ろう！	目的や解決した姿が明確だと、整理・分析等の活動の際も視点がぶれずに話し合うことができる。課題の再設定等の際も意識するよう促すと効果的。		
	☐ 解決(目標の達成、理想の実現)をしたかの基準が明確である ▲ゴミを拾う人を増やすことがゴール⇒ゴミ拾いイベントに100人集めたらゴール		実行したことによって、課題が解決したか、取組の効果があったかどうかについて、対象者や専門家から、客観的なフィードバックを得て、探究のサイクルを複数回実行する機会を設定することが効果的。	
	☐ 「あなたなら何をするか」という実行方法を問う課題である ▲防災とは何かを考えよう⇒防災について知ってもらうために私達に何ができるだろうか？			活動への振り返りにだけになっていないかに注意をする。【例】「今日は成果物について友達と話し合った。」 活動を通して次はどのように課題解決に向かっていきたいかを考えること。また、どのような力が身に付いたのかを振り返る場面を設定することが大切。
	☐ 解決したかどうかを検証し、次につなげる活動の時間がある ▲最終結果をまとめて発表した⇒未解決理由を探り、改善策を考え(実行)した			
☐ 振り返りの視点を示し、学びの自覚化を促す時間がある ▲チェックシートに〇×を付ける⇒何を学び、どう活かすか等を子供自身が言語化する				
☐ 探究的な学習のプロセスを繰り返し、学びを発展させている 戸田型PBL発展のイメージについては、右記QRコード 「令和3年度 戸田市 指導の重点・主な施策」を参照				

戸田市小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会の金賞校の発表には上記の要件が盛り込まれています。

実践事例（令和5年度戸田市小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会より）

笹目小学校の実践	☒ 「誰の何のため」という、対象と目的が具体的かつ明確である →笹目小学校の全ての子供たちが、図工の作品を壊さないで持ち帰れるようにしたい ☒ 解決(目標の達成、理想の実現)をしたかの基準が明確である →立体作品を持ち帰ったときに、どの学年の子供でも壊れないで持ち帰れる ☒ 「あなたなら何をするか」という実行方法を問う課題である →図工の作品を壊さないで持ち帰る方法とは何かを考え、全校児童に伝える	YouTube 令和5年度 金賞 笹目小学校 「図工の立体作品を壊さずに持ち帰ろう」
新曽中学校の実践	☒ 「誰の何のため」という、対象と目的が具体的かつ明確である →小学生が、被災時に一人の時でも命を守れるよう正しい防災知識を知ってほしい ☒ 「あなたなら何をするか」という実行方法を問う課題である →鍵っ子に対し、防災について正しい知識を伝える防災ゲームを開発し提案する ☒ 解決したかどうかを検証し、次につなげる活動の時間がある →小学生にテストプレイをしてもらいフィードバックを受けて、分かりやすい防災ゲームに改善する	YouTube 令和5年度 金賞 新曽中学校 「鍵っ子に安全を届ける防災ゲームの提案」

★戸田型PBLをより質の高いものにするために、

「戸田型PBL」の考え方
「PBLの授業設計」
「活動」や「学び」をホンモノ化するポイント
「学習意欲」をホンモノ化するポイント

平成31年度 指導の重点・主な施策
令和2年度 指導の重点・主な施策
令和4年度 指導の重点・主な施策
令和5年度 指導の重点・主な施策



平成31年度



令和2年度



令和4年度



令和5年度